

日本版DMO形成・確立計画

1. 日本版DMOの組織

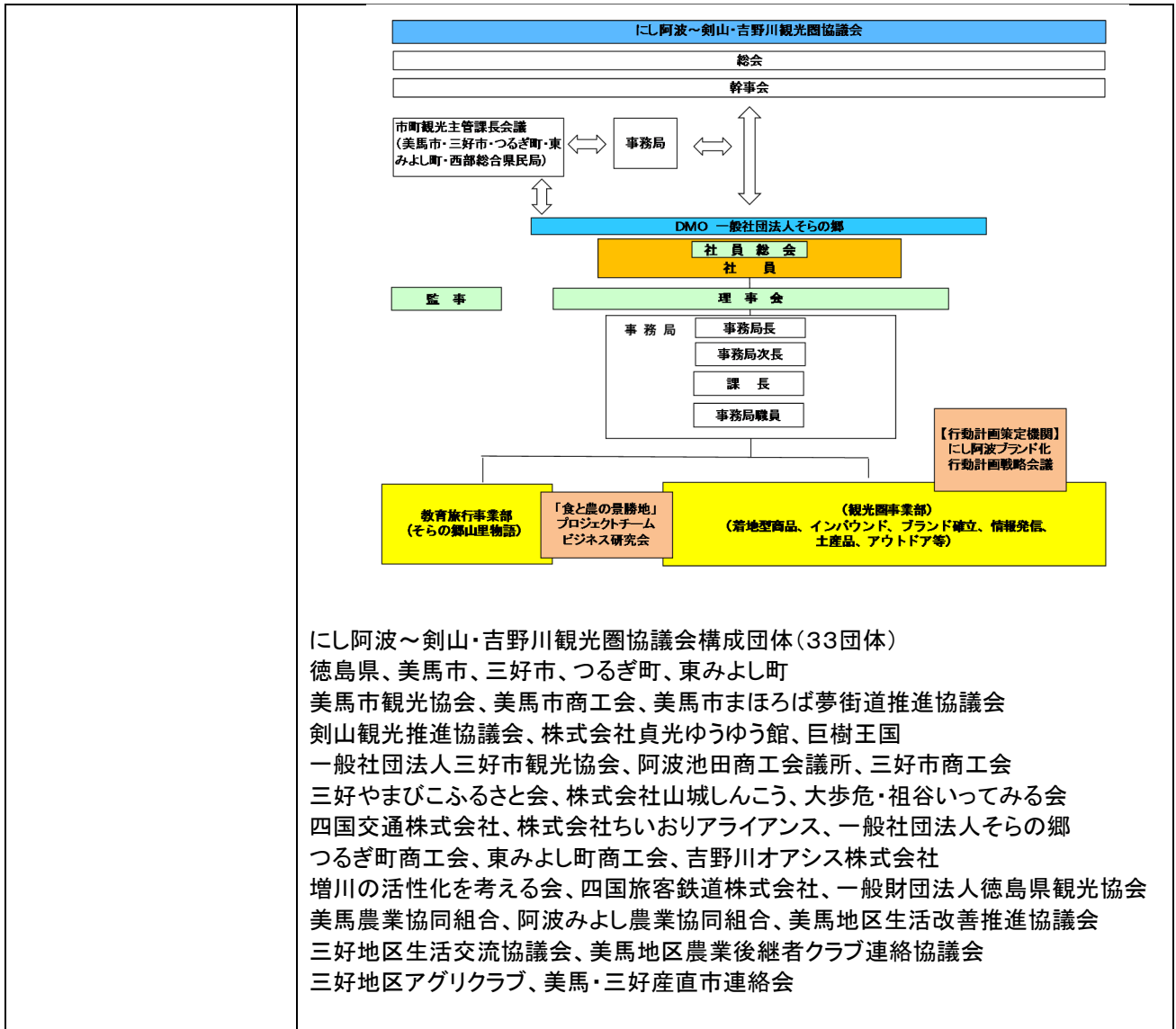
申請区分	広域連携DMO・ <u>地域連携DMO</u> ・地域DMO	
日本版DMO候補法人の名称	一般社団法人そらの郷	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	徳島県美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町	
所在地	徳島県三好市池田町サラダ1893番地1	
設立時期	平成23年2月2日	
職員数	7人	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者）	（氏名） 大柿 兼司	設立以前から教育旅行事業等を推進し、地域の様々な機関及び受入家庭との調整役として修学旅行の受入体制整備をにし阿波全域で行い成果をあげている。
各種データの分析・収集等（マーケティング）の責任者（専門人材）	（氏名） 丸岡 進「専従」 （出身組織名） 徳島県	徳島県西部総合県民局において長年「にし阿波」における観光振興施策に携わり、インバウンド誘客など、観光地域マーケティングについて高い知見と能力により観光地域づくりにおいて大きな成果をあげている。
各部門（プロモーション）の責任者（専門人材）	（氏名） 出尾 宏二 （出身組織名） 四国旅客鉄道（株）	四国旅客鉄道（株）で27年間の宣伝・商品企画と観光プロモーション事業に携わった経験を活かし、着地型旅行商品の販売促進企画に高い能力を持つ。
各部門（農泊、体験型教育旅行の拡大）の責任者（専門人材）	（氏名） 松浦 英人 （出身組織名） 東みよし町	東みよし町役場に在籍中は体験型教育旅行の受入において「そらの郷」と受入家庭とのパイプ役を担っており、その高いコーディネート力により農泊の拡大に取り組んでいる。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	徳島県西部総合県民局 美馬市美来創生局観光課（観光地域づくり） 美馬市経済建設部監理課（社会資本整備） 美馬市経済建設部農林課（都市農村交流） 美馬市市民環境部ふるさと振興課（地域振興・地域活性化） 美馬市教育委員会文化・スポーツ課（文化財保存活用） 美馬市総務部総務課（国際交流） 三好市産業観光部観光課（観光地域づくり） 三好市建設部工務課（社会資本整備） 三好市産業観光部商工政策課（商工振興） 三好市産業観光部農業振興課（農業振興） 三好市産業観光部林業振興課（林業振興）	

(別添) 様式 1

	<p>三好市企画財政部地方創生推進課 (景観計画・地域振興・国際交流) 三好市教育委員会文化財課 (文化財保護活用) つるぎ町商工観光課 (観光地域づくり) つるぎ町教育委員会生涯学習課 (文化財の保全・修復) つるぎ町企画課 (地域振興、まちづくり) つるぎ町農林課 (地域特産品振興、農林業振興) つるぎ町貞光ゆうゆう館 (コンシェルジュ機能の強化) つるぎ町建設課 (社会資本整備強化) 東みよし町産業課 (観光地域づくり) 東みよし町企画課 (町振興計画への反映) 東みよし町建設課 (社会資本整備) 東みよし町教育委員会生涯学習課 (地域芸能、文化財の保全)</p>
連携する事業者名及び役割	<p>美馬市観光協会 (ガイド育成・滞在プログラム造成) 美馬市商工会 (地域資源発掘・商品造成) 美馬市まほろば夢街道推進協議会 (周遊ルート開発) 大歩危・祖谷いってみる会 (宿泊サービス改善) 四国交通株式会社 (アクセス改善) 株式会社山城しんこう (滞在プログラム企画) 株式会社大歩危妖怪村 (ガイド養成・地域資源発掘) NPO 法人簾庵トラスト (地域資源発掘) 三好やまびこふるさと会 (土産品等の開発展開) 剣山観光推進協議会 (地域資源発掘) 一般社団法人三好市観光協会 (コンシェルジュ機能強化) 阿波池田商工会議所 (地域資源発掘・商品造成) 三好市商工会 (地域資源発掘・商品造成) 巨樹王国 (地域振興・まちづくり) 株式会社貞光ゆうゆう館 (回遊商品の開発・地域特産品の開発) つるぎ町商工会 (土産品等の開発展開、商業ベースの協調体制づくり) 東みよし町商工会 (「連携企業」コーディネート) 増川の活性化を考える会 (「体験型観光」推進) 吉野川オアシス株式会社 (各種情報発信・土産品等の開発展開) 美馬農業協同組合 (農業振興・地域振興) 阿波みよし農業協同組合 (農業振興・地域振興) 美馬地区生活改善推進協議会 (地域振興・地域活性化) 三好地区生活交流協議会 (地域振興・地域活性化) 美馬地区農業後継者クラブ連絡協議会 (農業振興・地域振興) 三好地区アグリクラブ (農業振興・地域振興) 美馬・三好産直市連絡会 (地域振興・地域活性化)</p>

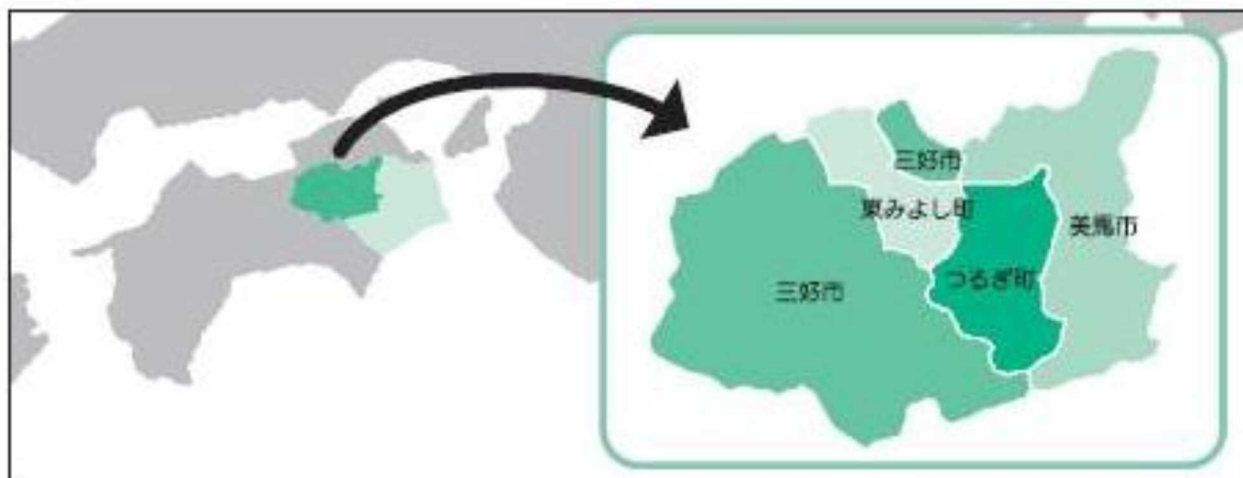
(別添) 様式 1

<p>官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>該当する要件) ③日本版DMOが行う取組に関する連絡調整を行うため、行政や関係団体から構成される協議会等をDMOとは別に設置 (概要) ③多様な関係者が参加する協議会を設置するほか、日常的な調整を実務者レベルで行うマネジメント会議を開催</p>																												
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<p>定期的(年2回程度)に、有識者を招き、農泊に取り組む家庭のレベルアップを目的とした研修会を開催するとともに、農泊家庭の新規開拓のためセミナーを開催</p>																												
<p>法人のこれまでの活動実績</p>	<p>(活動の概要) 平成23年2月に設立 にし阿波～剣山・吉野川観光圏の着地型観光を推進する「観光地域づくりプラットフォーム」として、旅行商品の企画・開発・販売や、外国人観光客誘客、体験型教育旅行受入窓口等を行ってきた。 平成28年2月 第一弾となる全国24法人、四国では2法人のひとつとして「日本版DMO候補法人」として登録 平成28年11月 全国5箇所西日本では唯一「にし阿波地域」が認定された「食と農の景勝地」の実行組織の役割を担う。</p> <p>(定量的な評価)</p> <table border="1" data-bbox="493 1021 1433 1447"> <thead> <tr> <th></th> <th>単位</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>宿泊者数</td> <td>人</td> <td>165,000</td> <td>173,000</td> <td>197,000</td> <td>206,000</td> <td>214,000</td> </tr> <tr> <td>外国人宿泊者数</td> <td>人</td> <td>2,872</td> <td>4,880</td> <td>7,611</td> <td>15,025</td> <td>23,681</td> </tr> <tr> <td>体験型教育旅行宿泊者数</td> <td>人</td> <td>3,458</td> <td>3,660</td> <td>3,319</td> <td>2,939</td> <td>3,827</td> </tr> </tbody> </table>		単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	宿泊者数	人	165,000	173,000	197,000	206,000	214,000	外国人宿泊者数	人	2,872	4,880	7,611	15,025	23,681	体験型教育旅行宿泊者数	人	3,458	3,660	3,319	2,939	3,827
	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度																							
宿泊者数	人	165,000	173,000	197,000	206,000	214,000																							
外国人宿泊者数	人	2,872	4,880	7,611	15,025	23,681																							
体験型教育旅行宿泊者数	人	3,458	3,660	3,319	2,939	3,827																							
<p>実施体制</p>	<p>(実施体制の概要) 行政、宿泊業者、交通事業者など多様な官民の関係者が参画する「にし阿波～剣山・吉野川観光圏協議会」において、着地型旅行商品の企画や、情報発信、体験型教育旅行の受入など、観光地域づくりの中心的役割を担っている。 (実施体制図)</p>																												



2. 日本版DMO候補法人がマーケティング・マネジメントする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

美馬市、三好市、つるぎ町及び東みよし町の2市2町は、平成20年に観光圏協議会を設け、観光地相互の連携による観光圏として内外からの観光旅客の来訪及び滞在の促進に取り組んでいる。

「剣山に代表される山の資源」と「吉野川に代表される川の資源」の恵みの上に成り立っている歴史文化、伝説伝承、暮らしを基に、独自ブランドの確立により他地域との差別化を図り、国内外のより多くの観光客から旅行先として選んでもらえる、観光地域を目指している。

これらにより、当該市町で連携した区域設定とするのが適切である。

【観光客の実態等】

・ 主要観光施設の入込客数

(単位：人)

年 度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
脇町うだつの町並み	199,689	184,242	194,894	180,540
祖谷のかずら橋	329,077	308,552	335,311	337,736
吉野川ハイウェイオアシス	959,900	914,880	978,180	962,350
貞光ゆうゆう館	227,090	225,324	226,944	226,241

・ 延べ宿泊者数

(単位：万人)

年	H25年	H26年	H27年	H28年
延べ宿泊者数	17.3	19.7	20.6	21.4

・ 消費額 (1人あたり)

(単位：円)

年 度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
消費額	30,795	26,837	31,502	31,579

(別添) 様式 1

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

項目	美馬市	三好市	つるぎ町	東みよし町
自然・景観	西日本第二の高峰・剣山 四国三郎・吉野川			
	<ul style="list-style-type: none"> ・清流 「穴吹川」 ・剣峡 ・白骨林、キレンゲシヨウマ（剣山系） ・花（桜、チューリップ、芝桜、シンビジウム） ・脇町潜水橋 	<ul style="list-style-type: none"> ・かずら橋 ・奥祖谷二重かずら橋 ・祖谷川 ・大歩危小歩危 ・下影の棚田 ・雲海 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の原風景「十家集落」 ・巨樹の里 日本一の大エノキなど88本の巨樹 ・吉良のエドヒガン桜 ・貞光川 ・土々呂の滝 ・土釜、鳴滝 	<ul style="list-style-type: none"> ・加茂の大クス ・美濃田の淵 ・水の丸地区「高原・星空」 ・東山地区棚田 ・増川谷、加茂谷川 ・「ホタルの里」 ・三枚とべ ・土々呂の滝
食べ物	<ul style="list-style-type: none"> ・みまから ・観光ブルーベリー園 ・観光りんご園 	<ul style="list-style-type: none"> ・祖谷そば ・お美姫鍋 ・秘境の地酒 ・石豆腐 ・ひらら焼き 	<ul style="list-style-type: none"> ・半田そうめん ・阿波尾鶏 ・貞之丞だんご ・あたご柿 ・一宇の干し柿 	<ul style="list-style-type: none"> ・水の丸イチゴ ・五名ゆず ・加茂山トマト ・あたご柿
歴史文化 伝説伝承	<ul style="list-style-type: none"> ・脇町うだつの町並み ・脇町劇場オデオン座 ・藍商佐直吉田家住宅 ・寺町 ・郡里廃寺 ・三木家住宅、阿波忌部 ・美馬の和傘 	<ul style="list-style-type: none"> ・落合集落 ・池田うだつの町並み ・妖怪伝承 ・祖谷平家伝説 ・戦国武将三好長慶 	<ul style="list-style-type: none"> ・天の岩戸神楽 ・踊り念仏（木屋、川見） ・一宇雨乞い踊り ・阿波忌部 ・貞光二層うだつの町並み ・旧永井家庄屋敷 	<ul style="list-style-type: none"> ・法市農村舞台 ・旧箸蔵街道 ・金丸八幡神社宵宮神事 ・お花大権現 ・六地藏峠 ・美濃田の淵桜の瀬 ・丹田古墳 ・東原遺跡

(別添) 様式 1

体験	農林業・伝統工芸体験（体験型教育旅行）			
	<ul style="list-style-type: none"> ・中尾山高原グラススキー ・カヌー、カヤック体験 ・パラグライダー体験 ・竹人形づくり体験 ・藍染め体験 ・和傘づくり体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・大歩危船下り ・ラフティング ・茅葺き古民家 ・ジップライン ・ツリートレッキング 	<ul style="list-style-type: none"> ・巨樹めぐりツアー ・干し柿づくり体験 ・豆腐づくり体験 ・十家集落訪問ウォーキング ・端四国ミニ巡礼 ・桜ウォーキング 	<ul style="list-style-type: none"> ・増川笑楽耕 ・阿波おどり体験 ・パラグライダー体験 ・藍染・草木染め体験 ・イチゴ狩り体験 ・箆蔵街道ウォーキング

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

宿泊施設数は全体で99施設あり、観光圏の滞在促進地域である大歩危・祖谷地区を含む三好市に約7割の69の宿泊施設が所在している。

市町名	施設数	客室数	収容力	施設規模（施設）			
				～20人	21人～50人	51人～100人	101人～
美馬市	16	182	695	5	6	4	1
三好市	69	624	2,473	38	16	10	5
つるぎ町	5	36	135	2	2	1	0
東みよし町	9	54	171	5	3	1	0
計	99	896	3,474	50	27	16	6

【利便性：区域までの交通、域内交通】

当地は、高速道路、国道及び鉄道が、隣接する三県へ繋がる四国の交流拠点となっており、特に、平成26年度には徳島自動車道が四国横断自動車道と徳島市内で連結され、本州四国連絡道路に繋がることにより、関西地方から圏域への移動の利便性が向上している。

また、徳島阿波おどり空港をはじめとする四国内の空港や、鉄道、高速バス等による公共交通機関を利用して訪れる観光客も多く、それらの公共交通機関と観光地とを結ぶ2次交通の整備や円滑な接続案内などを充実させることが課題となっている。

さらには、山間部が多く山腹崩壊などの発生もあり、通行の安全を図る取り組みが重要である。

【外国人観光客への対応】

当地は、「桃源郷のような別世界」と称される高地傾斜地集落の景観や伝統的な暮らしの体験などの特徴を活かし、アジアや米豪欧からの誘客を官民連携し展開し近年外国人観光客の当地への来訪が増加している。

そこで、当地を訪れた外国人観光客への、多言語表記の案内や、ICTを活用した多言語による情報発信などの取り組みを行っている。

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や今後の効果的な情報発信の基礎的なデータとするため。	自主事業として実施。
延べ宿泊者数	観光による経済波及効果の測定及び今後の観光地経営戦略の基礎的なデータとするため。	宿泊施設から報告書の提出を求めて実施。
外国人延べ宿泊者数	観光による経済波及効果の測定及び今後の観光地経営戦略の基礎的なデータとするため。	宿泊施設から報告書の提出を求めて実施。
「にし阿波体感プログラム」実施コンテンツ件数	当地の「住んでよし」実現ために実施している「にし阿波体感プログラム」をより効果的に実施するための基礎的なデータとするため。	自主事業として実施。
滞在プログラム参加者数	観光客のニーズを見極め、今後の滞在プログラムの造成についての戦略を立てるための基礎的なデータとするため。	自主事業として実施。
体験型教育旅行受入泊数	体験型教育旅行の受け入れを伸ばすための方策についての検討するための基礎的なデータとするため。	自主事業として実施。
宿泊旅行での消費額	観光による経済波及効果の測定及び今後の観光地経営戦略の基礎的なデータとするため。	アンケート調査を観光圏事業として実施。
主要観光施設の入れ込み客数	観光による経済波及効果の測定及び今後の観光地経営戦略の基礎的なデータとするため。	主要観光施設から報告書の提出を求めて実施。
平均宿泊数	観光による経済波及効果の測定及び今後の観光地経営戦略の基礎的なデータとするため。	アンケート調査を観光圏事業として実施。
リピーター率	観光による経済波及効果の測定及び今後の観光地経営戦略の基礎的なデータとするため。	アンケート調査を観光圏事業として実施。
総合満足度	観光による経済波及効果の測定及び今後の観光地経営戦略の基礎的なデータとするため。	アンケート調査を観光圏事業として実施。

4. 戦略

(1) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み (Strengths) ①自然・景観 ○山 (1000m 以上の山々、折り重なる山々) ○川と溪谷 (吉野川、穴吹川、祖谷川、深い峡谷、V字溪谷、エメラルドグリーンの	弱み (Weaknesses) ①自然・景観 ○自然景観の荒廃 (廃屋、耕作放棄地、放置された人口林) ○気象条件に左右される

(別添) 様式 1

<p>川、豊富な水、飲める水)</p> <p>○四季折々の景観 (桜、チューリップ、もみじ、キレンゲショウマ 雲海、雪など)</p> <p>○手つかずの自然、閑静な環境、巨樹、日本三大秘境</p> <p>②観光素材</p> <p>○温泉 (大歩危・祖谷温泉郷、秘湯)</p> <p>○主要観光資源 (うだつの町並み、かずら橋、大歩危船下り、二層うだつの町並み、吉野川ハイウェイオアシス)</p> <p>○体験プログラム</p> <p>○JR観光列車</p> <p>③食べ物</p> <p>○特産品 (みまから、祖谷そば、そば米雑炊、半田そうめん)</p> <p>○果物 (ブルーベリー、あたご柿、イチゴ)</p> <p>○ジビエ、ハラル対応牛、阿波尾鶏、鮎、アメゴ</p> <p>○農家レストランの新規開業</p> <p>④歴史文化・伝説伝承・暮らし</p> <p>○伝説伝承 (平家伝説、妖怪、郡里廃寺、白人神社、伊射奈美神社、三木家・忌部、大剣神社、ソロモンの秘宝)</p> <p>○伝統文化 (三味線餅つき、安楽寺の能、阿波おどり、桐下駄、端四国八十八カ所、藍染め)</p> <p>○暮らしに根付いた山岳集落の文化的景観 (天空の村: 木屋平、一宇、落合、増川)</p> <p>○地域ならではの個性的な店舗</p> <p>⑤人材・地域の特色</p> <p>○中核となる関係者の魅力 (元気でユニーク、積極的)</p>	<p>②観光素材</p> <p>○認知度不足</p> <p>○滞在プログラム、体験メニュー、着地型商品の不足</p> <p>○マーケティング不足 (ニーズ把握、分析、コンセプト)</p> <p>○情報発信不足 (リピーター獲得策、ウェブ対策)</p> <p>○持続的な観光開発の仕組み</p> <p>③食べ物</p> <p>○食材の課題 (グルメ、地産地消、食べることができるお店が少ない)</p> <p>○特産品不足</p> <p>④歴史文化・伝説伝承・暮らし</p> <p>○文化財の課題 (発信力、研究)</p> <p>○わかりやすく伝えるプログラム作りが不十分</p> <p>○地域ならではの店舗の魅力を伝えきれていない</p> <p>⑤人材・地域の特色</p> <p>○人材の偏り</p> <p>○後継者不足</p>
---	---

(別添) 様式 1

	<p>○地域の人々の魅力（温かい、優しい、素朴、おもてなしの心、高齢者の活気）</p> <p>○団結力</p> <p>⑥地理的特性・アクセス</p> <p>○四国中央部にある地理的優位性 （四国各県のハブになる可能性）</p> <p>○空港、JR、高速道路の便利さ</p>	<p>○人材育成の課題</p> <p>⑥地理的特性・アクセス</p> <p>○2次交通の不便さ</p> <p>○交通機関の情報不足</p>
外部環境	<p>機会 (Opportunity)</p> <p>○訪日旅行促進（ビジットジャパン）事業の推進</p> <p>○円安による訪日旅行の増加</p> <p>○ミシュラン等による海外向け情報発信 （欧米系外国人が既に来訪）</p> <p>○旅行形態の変化（個人旅行、ネット）</p> <p>○旅行者の旅行目的の多様化</p> <p>○観光圏事業の推進</p> <p>○海外航空便の就航</p>	<p>脅威 (Threat)</p> <p>○人口減少及び団塊世代の高齢化による国内旅行の低迷</p> <p>○テロ事件の影響</p> <p>○北朝鮮情勢の悪化</p> <p>○他地域との競争激化（国内観光、訪日旅行、さらに世界規模の競争）</p> <p>○観光圏の選別</p>

(2) ターゲット

<p>○第1ターゲット層 自然を体験する機会が少ない大都市圏住民</p>
<p>○選定の理由 これまでのデータでは自然を体験する機会が少ない近畿や関東地方の都市部住民が来訪者の6割を占めることから、にし阿波の強みである自然に恵まれた環境の中での住民と触れ合いながらの野菜収穫作業や集落巡り体験は、大都市圏の住民に対して訴求力が高いと見込まれるため。</p> <p>○取組方針 にし阿波圏域の豊かな自然を楽しむ滞在プログラムにより誘客に取り組む。</p>
<p>○第2ターゲット層 高収入の中高年夫婦</p>
<p>○選定の理由 これまでのデータでは来訪者の年齢層で60代の男女が多いことから、にし阿波の滞在交流型プログラムは、余暇に回せる時間とお金に余裕があり、にし阿波の住民とのコミュニケーションも楽しみにしている中高年齢の夫婦に対して訴求力が高いと見込まれるため。</p> <p>○取組方針 歴史文化、伝説伝承を探求したい中高年層をターゲットとした滞在プログラムの開発に取り組む。</p>
<p>○第3ターゲット層 日本の原風景や地域古来の伝統・文化に興味を持つ外国人</p>
<p>○選定の理由 国内の人口減少、少子高齢化が進む中、日本の歴史・伝統・文化に関心が高い欧米や経済成長しているアジアの観光需要を取り込むため、また、「桃源郷のような別世界」と評されるにし阿波の原風景に一定の認知が広まってきたにし阿波の集落巡りの最適な旅行形態である「FIT」や10人程度</p>

(別添) 様式 1

の旅行が中心のアジアや欧米の富裕層が興味をもっているため。

○取組方針

地域の魅力の情報発信や着地型旅行商品の造成に取り組む。

(3) コンセプト

<p>①コンセプト</p>	<p>剣山に代表される山の資源」と「四国三郎・吉野川に代表される川の資源」の恵みが育んだ、独特の歴史文化、伝説伝承、暮らしにより、他地域との差別化を図り、独自ブランドの確立を目指します。</p>
<p>②コンセプトの考え方</p>	<p>圏域は「剣山に代表される山の資源」と「四国三郎・吉野川に代表される川の資源」によって育まれた、地域の暮らし・歴史・文化が一体となって圏域の人々をつなぐ絆となっています。</p> <p>特に、山腹に張り付くように民家や農地が点在する山岳集落の独特の文化的景観や、人々の暮らしに根付いている伝説伝承などの「山」の資源は全国的にも非常に珍しいものです。東洋文化研究者アレックス・カー氏が著作で紹介し世界中から来訪者のある「日本三大秘境・祖谷」をはじめとした景観は当地でなければ味わえない上質な光素材です。</p> <p>また、四国一の流域面積を誇る大河吉野川の恵みにより、たばこや藍、水運で栄えた脇町、貞光、池田には、富の象徴である「うだつ」をあげた古い町並みが残り、ノスタルジックな旅情が満喫できます。にし阿波では、「川」が地域の歴史文化を育み、今も暮らしの軸を形成しています。</p> <p>「剣山」を源とする、四国一の清流「穴吹川」、秘境の陰しく美しい「祖谷川」、巨樹巨木の森を育てた「貞光川」の流れは、圏域の人々の暮らしにつながる「吉野川」に流れ込みます。池田からは東西一直線に流れる「吉野川」は、朝日夕日が川面に輝く贅沢な景観が日常であり、各地を深く静かにつながっています。</p> <p>地域にとっては「当たり前の日常」の、しかし贅沢な「剣山に代表される山の資源」と「四国三郎・吉野川に代表される川の資源」の恵みの上に成り立っている歴史文化、伝説伝承、暮らしを基に、他地域との差別化を図り、独自ブランドの確立を目指します。</p>

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有	観光圏協議会には、観光事業者、交通事業者、行政等多様な関係者が参画しており、年2回程度開催する総会や幹事会において、事業や戦略についての議論や情報の共有を行う。また、DMOを中心として、観光地域づくりマネージャー等による議論を行うマネジメント会議等を2か月に1回実施する。
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	宿泊施設に係る品質認証制度「SAKURA QUALITY」を実施する。今後、対象施設の拡大や、ガイド・アクティビティへの導入についても検討していく。 また、観光圏協議会やマネジメント会議の中で、PDCAサイクルの実施等各種サービスの維持・向上・評価に取り組んでいく。
一元的な情報発信・プロモーション	DMOを中心にホームページやSNSによる情報発信を行う。また、ツーリズム EXPO や各種商談会の場の活用や、個々営業活動など、一元的なプロモーションを実施していく。

6. KPI (実績・目標)

(1) 必須KPI

	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
● 旅行消費額	円	33,940	30,795	26,837	31,502	27,416	31,600
● 延べ宿泊者数	人	165,000 (2,872)	173,000 (4,880)	197,000 (7,611)	206,000 (15,025)	214,000 (23,681)	218,000 (25,000)
● 来訪者満足度	%	60.6	86.7	78.2	73.5	88.1	85.0
● リピーター率	%	32.6	26.9	19.1	54.2	57.8	58.0

※年次及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

(別添) 様式 1

【検討の経緯】

「観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律（観光圏整備法）」に基づき設定した目標値でもある旅行消費額、延べ宿泊者数、来訪者満足度、リピーター率の4つの指標について引き続き利用し、来訪者の満足度を高め、来訪回数を増やすことが当地域にとって地域活性化に資すると判断する。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

調査結果に基づく旅行消費額実績（過去4年間（H24～27）の平均消費額実績）をベースに、5年後にプラス5%を目標として設定した。

●延べ宿泊者数

実績値をベースに、管内のインバウンド増加率が四国運輸局管内の増加率を上回って推移している傾向等を踏まえ、目標設定した。

●来訪者満足度

調査結果に基づく来訪者満足度を基に一定の率を維持・向上するよう目標設定した。

●リピーター率

調査結果に基づくリピーター率を基に一定の率を維持・向上するよう目標設定した。

●なお、現在、次期観光圏の認定申請に向け、地域の観光・宿泊・製造・アウトドアガイド事業者等や行政で構成する組織において行動計画を策定中であり、KPIについても有識者を交え、項目や目標値も含めて検討中である。

(2) その他の目標

	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
●体験型観光 受入泊数	人	— (—)	3,817 (—)	3,831 (39)	4,278 (177)	5,517 (237)	4,700 (150)
●広域連携に よる観光プ ロモーション 実施回数	回	—	—	—	4	3	3

【検討の経緯】

当地域の売りである農林業等の体験交流型プログラムの提供実績をさらに伸ばすため、目標値に設定した。

また、2市2町が共同してファムツアーを実施したり旅行展示会等で共同ブースを構えるなど、圏域内外において広域連携した観光プロモーションを実施することで、効率的な情報発信・旅行プログラム等での連携が進み、誘客が図られる。

【設定にあたっての考え方】

●体験型観光受入泊数

中高生を対象とした教育旅行や一般観光客を受け入れる農林漁家民宿といった、当地域ならではの地域住民と一緒にやって行う農林業体験を必須とする体験型観光受入泊数により、当地域の特徴をさらに磨き上げることにつながる。

●広域連携による観光プロモーション実施回数

(別添) 様式 1

ツーリズム EXPO ジャパンやビジットジャパントラベルマートでの商談会や四国ツーリズム創造機構商談会、JATAセミナー・ファムツアーなどにおいて、圏域の2市2町が一体となり観光プロモーションすることで認知度向上、マンパワー集約化による効率化などにつながる。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

(1) 収入

年度	総収入 (円)	内訳
平成 26 年度	(円) 86,077,464	(円) (内訳の区分) 【旅行商品売上収入】 56,422,980 【市町からの運営負担金】 12,962,965 【県からの委託料】 13,534,940 【観光圏市町単独事業費負担金】 2,796,000 【受取利息】 6,047 【雑収入】 354,532
平成 27 年度	(円) 77,207,178	(円) (内訳の区分) 【旅行商品売上収入】 54,323,002 【市町からの運営負担金】 8,562,965 【県からの運営負担金】 9,008,939 【観光圏市町単独事業費負担金】 4,400,000 【雑収入】 912,272
平成 28 年度	(円) 102,657,672	(円) (内訳の区分) 【旅行商品売上収入】 63,802,855 【市町からの運営負担金】 14,925,928 【県からの運営負担金】 17,615,000 【観光圏市町単独事業費負担金】 7,000,000 【雑収入】 981,789
平成 29 年度	(円) 98,673,000	(円) (内訳の区分) 【旅行商品売上収入】 59,000,000 【市町からの運営負担金】 14,926,000 【県からの運営負担金】 17,615,000 【観光圏市町単独事業費負担金】 7,000,000 【雑収入】 132,000

(別添) 様式 1

平成 30 年度	(円) 99,000,000	(円)
		(内訳の区分)
		【旅行商品売上収入】 59,000,000
		【市町からの運営負担金】 14,926,000
		【県からの運営負担金】 17,615,000
		【観光圏市町単独事業費負担金】
		7,000,000
		【その他収入】 459,000

(2) 支出

年度	総支出	内訳
平成 26 年度	(円) 86,077,464	(円)
		(内訳の区分)
		【旅行商品仕入支出】 49,923,715
		【販売費及び一般管理費】 29,633,502
		【観光圏市町単独事業費】 2,796,000
		【雑損失】 2,833,647
		【法人税、住民税及び事業税】
		890,600
平成 27 年度	(円) 84,227,511	(円)
		(内訳の区分)
		【旅行商品仕入支出】 49,916,029
		【販売費及び一般管理費】 29,911,482
		【観光圏市町単独事業費】 4,400,000
平成 28 年度	(円) 99,029,644	(円)
		(内訳の区分)
		【旅行商品仕入支出】 56,737,598
		【販売費及び一般管理費】 35,292,046
		【観光圏市町単独事業費】 7,000,000
平成 29 年度	(円) 93,183,000	(円)
		(内訳の区分)
		【旅行商品仕入支出】 45,000,000
		【販売費及び一般管理費】 41,183,000
		【観光圏市町単独事業費】 7,000,000
平成 30 年度	(円) 93,183,000	(円)
		(内訳の区分)
		【旅行商品仕入支出】 45,000,000
		【販売費及び一般管理費】 41,183,000
		【観光圏市町単独事業費】 7,000,000

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

区域を構成する地方公共団体における宿泊税の導入、着地型旅行商品の造成・販売等の取組・方針を記載

①地方公共団体からの運営負担金

・専門人材の育成

急増する外国人観光客への対応強化、広域的な旅行事業、異分野連携事業、他の観光圏や広域観光周遊ルートとの連携事業を行うための専門的な人材を育成することを目的とした各自治体からの運営負担金。

②体験型観光の推進

・体験型教育旅行の受け入れ体制の充実

受入家庭の増加を促進し、大規模校の受け入れにも対応できるようにする。

また、研修会、講習会及び先進地視察の実施により既存の受入家庭の質の向上を図り、信頼される受け入れ先となることを目指し、受注機会の増加に資する。

・一般向け体験型観光への取り組み強化

体験型教育旅行で培ったノウハウを基に、季節による変動が大きい体験型教育旅行の受け入れ以外に企業や大学生・専門学校等を対象とした体験型観光の受注に取り組み、売上及び収益の増加を図っていく。

・組織体制の充実と営業力の強化

計画的で継続的な営業活動を行い、現在は誘致実績がない地域については、逆にチャンスと捉え積極的かつ重点的に活動し受注の増加に繋げていく。

③着地型商品、開発販売体制の強化

・第2種旅行業の取得

旅行業の種別を、第3種から第2種に格上げ(H28.3)し、企画旅行の催行可能地域の制限をなくし、他地域を発着地とする商品造成を行い売り上げ及び収益の増加を図っている。

・着地方旅行商品の販売増

地域の伝統文化を体感できる旅行商品のブラッシュアップを図り、外国人観光客を含めた多くの観光客への販売を図る。ナショナルジオグラフィック・ツアー等の世界的に知名度が高いツアーを積極的に継続誘致し、地域のブランド向上に努めるとともに、ツアーに組み込む体験交流型プログラムを複数造成し、ツアーのバリエーション増加を図る。

・スタディツアー等新たな旅行需要の取り込み

国内外の大学の研修旅行等、新たな旅行需要に対応できる商品造成を行う。

8. 日本版DMO形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

徳島県、美馬市、三好市、つるぎ町及び東みよし町は、一般社団法人そらの郷を当地における日本版DMOとして認め、地域連携DMOとして登録したいので一般社団法人そらの郷とともに申請します。

9. 記入担当者連絡先

担当者氏名	丸岡 進
担当部署名 (役職)	そらの郷事務局 事務局長
所在地	徳島県三好市池田町サラダ 1 8 9 3 - 1
電話番号 (直通)	0883-76-0713
FAX 番号	0883-72-0753
E-mail	sora-07@cn05.awaikeda.net

10. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	徳島県
担当者氏名	中島 功志
担当部署名 (役職)	西部総合県民局企画振興部<三好>にし阿波観光戦略担当 係長
所在地	徳島県三好市池田町マチ 2 4 1 5
電話番号 (直通)	0883-76-0374
FAX 番号	0883-76-0450
E-mail	nakajima_kouji_1@pref.tokushima.jp

都道府県・市町村名	徳島県美馬市
担当者氏名	逢坂 肇
担当部署名 (役職)	美来創生局観光課 主任
所在地	徳島県美馬市穴吹町穴吹字九反地 5
電話番号 (直通)	0883-52-5610
FAX 番号	0883-52-1704
E-mail	Osaka475@mima.i-tokushima.jp

都道府県・市町村名	徳島県三好市
担当者氏名	大和 勉
担当部署名 (役職)	産業観光部観光課 主任主査
所在地	徳島県三好市池田町マチ 2 1 4 5 - 1
電話番号 (直通)	0883-72-7620
FAX 番号	0883-76-0203
E-mail	t-yamato_01@city.tokushima-miyoshi.lg.jp

都道府県・市町村名	徳島県美馬郡つるぎ町
担当者氏名	多田 和裕
担当部署名 (役職)	商工観光課 係長
所在地	徳島県美馬郡つるぎ町貞光字東浦 1 - 3
電話番号 (代表)	0883-62-3114
FAX 番号	0883-62-4944
E-mail	Tada-k@tsurugi.i-tokushima.jp

都道府県・市町村名	徳島県三好郡東みよし町
担当者氏名	大久保 怜
担当部署名 (役職)	産業課 係長
所在地	徳島県三好郡東みよし町昼間 3 6 7 3 - 1
電話番号 (直通)	0883-79-5345

法人名：一般社団法人そらの郷
登録区分名：地域連携DMO

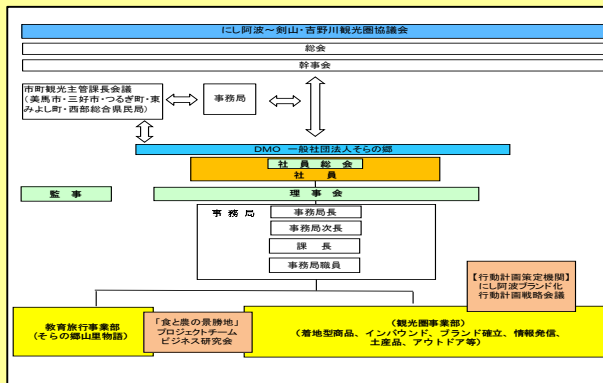
「剣山に代表される山の資源」と「四国三郎・吉野川に代表される川の資源」の恵みが育んだ、独特の歴史文化、伝説伝承、暮らしにより、他地域との差別化を図り、独自ブランドの確立を目指します。

【区域】徳島県美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町

(表：実施体制)

(表：KPI(実績・目標))※()内は外国人に関するもの

【設立時期】平成23年2月2日



	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
旅行消費額	30,795	26,837	31,502	27,416	31,600
延べ宿泊者数	173,000 (4,880)	197,000 (7,611)	206,000 (15,025)	214,000 (23,681)	218,000 (25,000)
来訪者満足度	86.7	78.2	73.5	88.1	85.0
リピーター率	26.9	19.1	54.2	57.8	58.0

【代表者】大柿 兼司

【地域経営計画責任者】丸岡 進

【プロモーション・旅行商品造成・販売責任者】出尾 宏二

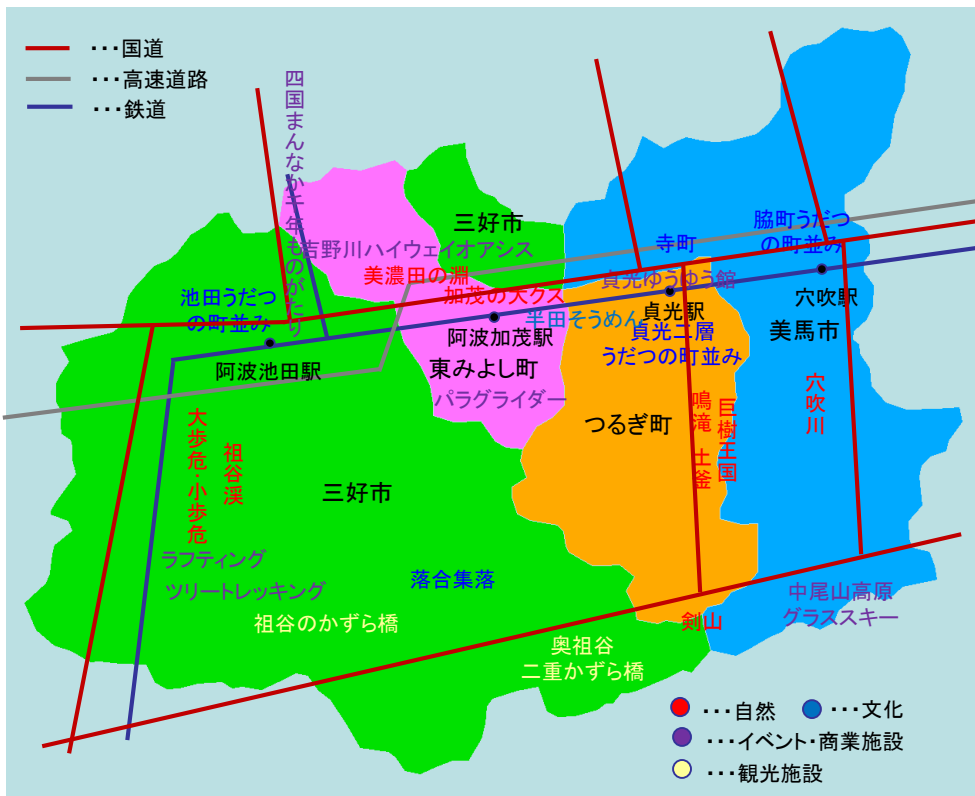
【農泊・体験型教育旅行拡大責任者】松浦英人

【職員数】7人

【連携する主な事業者】観光協会、商工会、宿泊事業者
交通事業者

観光施設に関する取組

- サービスの改善及び向上
 - ・観光圏内限定旅行者代理業を活用した滞在プログラム等の企画・販売
 - ・広域連携による宿泊客の誘致
- 受け入れ態勢整備
 - ・観光事業従事者等の接遇の向上
 - ・観光(ボランティア)ガイドの育成
 - ・体験型観光受入態勢づくり
- 移動の利便性の向上
 - ・二次交通の整備推進
- 情報提供の充実強化
 - ・滞在プログラム等のプロモーション
 - ・コンシェルジュ機能を強化した案内拠点整備
 - ・ブロードバンド環境を活用した情報提供



文化に関する取組

- ブランド空間づくり
 - ・基本コンセプトに沿った景観形成
- 滞在プログラムづくり
 - ・基本コンセプトを活用した滞在プログラムづくり
 - ・観光地域づくり活動による滞在プログラムづくり

自然に関する取組

- ブランド空間づくり
 - ・基本コンセプトに沿った景観形成
- 滞在プログラムづくり
 - ・基本コンセプトを活用した滞在プログラムづくり
 - ・観光地域づくり活動による滞在プログラムづくり

イベント・商業施設に関する取組

- 滞在プログラムづくり
 - ・「にし阿波体感プログラムイベント」の開催
- 情報提供の充実強化
 - ・コンシェルジュ機能を強化した案内拠点整備
 - ・ブロードバンド環境を活用した情報提供